Rock The Life! ezorock

2011.10
vol.10

被災地の現実

岩手県釜石市栗林地区。この地区はジョイ（柏崎未来さん）が通っていた小学校や中学校、もちろん実家もあった場所。
震災直後、見渡す限りがれきが広がっていたが、今ではだいぶ片付けられている状況だ。

釜石市に行って現場を見て、より早くの復興を願うようになりました。（けん・北海学園大２年）

すごく釜石はいいところです！なにかしたいと思うなら行動することが大事です！（りょーた・教育大４年）

一生忘れません（みどり・北大４年）

今まで周りのことに無関心だった自分に気付かされました。自分の住んでいる町も、釜石も、日本も、地球のことも、誰かに任せないでみんなで考えれたら良いですね。（よっしー・教育大３年）

教師になり、ボランティアを通して感じたことを生徒たちへと繋げていきたいです！！（ディー・教育大４年）

ジョイさんの「家族・友達を大切にしていってほしい」ということばは、心に響いたし、すごく大切なメッセージだと思った。（杉野真介・北翔大３年）

被災地をただメディアを通して見るのと、五感を通して見るのでは全く違う!!『他人事』ではなく、『一人一人の意識』が大切!!（おばら・教育大４年）

震災がおきても人との繋がりはちぎれない。ボランティアに行き、より一層強固な繋がりに！（黒澤・北大院）

活動で見たり感じたことを忘れずに、次の世代に伝えていきたい。そのために大学で団体を作り、今は写真展とフリーペーパーの作成をしています。（あかり・教育大４年）

行ってよかったと心から思います。釜石の美しい自然と、釜石のために全国から集まったボランティアの方々のあたたかさにふれることができたから。（いわむー・北大４年）

釜石、東北はとても自然に溢れていて温かく迎えてくれる優しい町でした。まだまだ手付かずのところが多く誰が行っても力になれると思います！（こうちゃん・北翔大３年）

一番強く感じたのは災害の悲惨さではなく現地の人の暖かさでした。ボラセン（活動拠点）に来てくれたお母さんの唐揚げがまた食べたい!!!（マサ・北星学園大４年）

復旧作業はまだまだこれから時間がかかることを痛感しました。だからこそ、Remember 3.11!!!（まなぶ・北大４年）

ジョイさんやもんじゅは毎日あそこで暮らしているのにボッと来た私達にもとても明るく接してくれました！次は長期で必ず行かせていただきます！（とも・苫小牧駒澤大学）

一生、釜石ファンでいます!!（まー坊・北大院１年）

to ジョイ

by ezorock釜石ボランティアスタッフ

震災前よりももっと元気な釜石にしよう！（せーの・北大３年）

全力で真剣に取り組んでいるからこそ支えてくれる人達が居る。人との繋がりを学びました。見て感じた事を周囲に、次の世代に伝えて行きましょう（こまねち・北翔大２年）

釜石の昔ながらの温かさが、もっともっと蘇るよう、これからも応援していきます！（カナコ・教育大）

人と人とのつながりを学べた素晴らしいところでした♪ JOYへ／二の腕の柔らかさ最高です！（とっくん・北海学園大１年）

実際に行ってみて、パンクしそうになるほど、思うこと沢山でした。テレビの光景の向こうでは人が暮らしているということを実感しました。（をすぎ・教育大４年）

釜石は人と人との距離が近く本当に良いところでした。一刻も早く地震前みたく復興することを願っています。（あいし・北大２年）

釜石の方々は、とても心の温かい人だなと感じました。そんな方々にみなさんの力を貸していただきたいです。よろしくお願いします。（らいぶ・教育大４年）

釜石の人の温かさ、自然の豊かさがすごく好きです。そんな釜石の復興にまた何らかの形で関わっていきたい。一緒にがんばっていきましょう。（かい・教育大４年）

ジョイからみんなへ

NPO法人ねおす
柏崎 未来さん
（愛称：ジョイ）

いつも釜石の支援に多大なご協力をいただきまして、ありがとうございます。東日本大震災から半年が過ぎました。あっという間にも感じますが、とても長く濃い半年でした。たくさんの悲しい別れを経験し、辛い想いをしてきました。失ったものは大きく、その傷は消えることはありませんが、得たものもたくさんあります。それは釜石に来てくださるボランティアの方々との出会いです。特にezorockを経由してくる方々は私と年が近いので話しやすいし、元気をいつももらっています。ありがとう！
私は大好きな故郷、釜石で自分にできることをがんばっていきたいと思いますので、これからもサポートよろしくおねがいいたします！

環境NGOezorock 情報誌
釜石支援プロジェクト特別号 vol.10 2011.10
Rock The Life! ezorock

〒064-0809　札幌市中央区南９条西３丁目１ー７
TEL/FAX　011-562-0081　　E-mail　info@ezorock.org
WEB　http://www.ezorock.org/

環境NGO ezorock
www.ezorock.org

20110929

私たちが釜石に行く理由

東日本大震災発生から約半年。
わたしたちはあるひとりの仲間のために
被災地へ行きました。また次の世代へ
今起こっていることを伝えていく
必要があると考えています。

文／高橋苗七子

2011年3月11日14時46分18秒
この日起こったことは、一生忘れられません。

わたしは、他のNPOの事務所にいて、ただのいつもの地震かと思いましたが、駅が崩れているというツイートや、USTREAMで見た濁流に飲み込まれる街の映像で、ただごとでないことを知りました。

みなさんは、どこで何をしていましたか。

東北地方太平洋沖地震。
日本において観測史上最大の、マグニチュード9.0を記録。東北の沿岸に大津波を引き起こし、1万5788名の死者、4057名の行方不明者を生みました（2011年9月15日時点）。

被害にあった東北の沿岸部にある岩手県釜石市は、わたしたちが「ジョイ」と呼んでいる、釜石出身の女性：柏崎未来さん（26才）の故郷。山と、渓流と、三陸の海のある町です。

ジョイは震災の翌々日、職場である、北海道で自然体験事業などを行う「NPO法人ねおす」の2名と一緒に、なんとか釜石に入り、それからずっと現地で活動をしています。元々、来年になったら釜石に戻って、大好きなおばあちゃんの持つ知恵や生活技術を学びながら、それを伝える仕事をしたいと考えていました。

わたしたちが一番やりたいことは、同じ北海道の若者であるジョイの夢を応援することです。それは、釜石の復旧復興につながるはずです。

釜石では、3月後半から、のべ74名の若者がezorock経由で活動しました。ボランティアには受け入れ側にも、送り出す側にもコーディネートが必要です。現地ではジョイの所属するねおすが、地域に入り、今必要とされていることはなにかを知り、仕事をつくりだし、宿泊・食事の拠点も確保してくれていました。わたしたちにそれは出来ないけど、その仕事の実働部隊として動くことはできます。

ただ、現地での実際の活動は、刻一刻と変わるニーズに答えることの連続で、誰も先が見えていません。よってボランティアに任されることも多く、また、地域の方からは黄色のジャンバーを来ている人は全員「ねおすさん」と見られます。一つの発言や行動で人を傷付けたり、信頼を失うかもしれない。行きたい最初の理由はなんでもいい。現場の負担にならないように、北海道で募集や説明会を開催し、現地のことを知り、皆とジョイをうまくつなげることが大事だと思いました。

◀がれき撤去時はベストになってます。
▼これを着ると、北海道のスタッフだとすぐわかる!

活動のひとつ、4月～6月頃にやらせてもらっていた「青空喫茶」は、避難所の人だけでなく、その周辺に住む人が物資を受け取ることができる貴重な場所でした。避難所の人たちにとっては、ひきこもりがちな生活から外に出たり、自分の気持ちを人に話せる場所。また、それぞれのニーズに合わせて物資を選べる場所でした。そこで聞いた話は想像しがたい辛い話ばかりでしたが、皆いつも明るく振舞っていました。そういった中で若者だからできることがありました。

子供の遊び相手です。年輩の方は若い人と話すのは久しぶりだと喜んでくれ、抱えていることを話してくれました。ほかにも暑さの中、上下長袖にマスクをしてのがれき撤去作業や、不足していた若者向けの夏服を集めてのバザー開催など。帰ってきてからも大学や周囲の友達に声をかけ、人がどんどんつながっていきました。

しかし忘れてはいけないのが、わたしたちの活動にかかるコストをさまざまな支援者の方々が提供してくださっていること。交通費、食費、調整費、交通費の一部：釜石でもお風呂、食事の差し入れなど…さまざまな方の思いを背負って活動しています。

釜石から内陸へ車で1時間の「岩手県遠野市」。震災直後、ガソリンも、食料も不足する中、今まで培ってきた民間のネットワークで、いちはやく物資、ボランティアが集まり、周辺地域への支援拠点となりました。お金や物資の準備より、人と人のネットワークがまず活用されたのです。

食事は自分たちで自炊をしています▶

ジョイがいつも言うのが、「釜石のファンになってほしい」。実際に行くと、被災地としてでなく、いち地域として見ることができます。蛍のいる渓流、笑顔で快く受け入れ、もてなしてくださる地域の方、おいしい東北料理、ふとしたところに感じる歴史や文化。地域を好きになることで、また行きたくなるような継続的な関係になり、それがネットワークになり、助け合える関係になるのだと思います。

こうしてつながった北海道の若者が、ezorockロゴカラーのグレーのように（黒でもなく白でもなく）、何気なく社会の色々なところに溶け込んで、これからの社会のあり方を決めるプロセスの中に入っていくことに、意味があると思っています。

阪神大震災がボランティア元年となり、NPO法施行のきっかけとなったように、今回のことも、社会で大きな変化を生んでいます。それはなにかまだわからないですし、これからの自分達次第ですが、今回のことを知らない次の世代の子どもや孫たちに、空気を感じ、人と話し、汗を流して得た実感を持った言葉で、伝えることができるようになりたいと思っています。

ただ、できることは直接行くことだけではありません。ジョイが定期便の皆に別れ際言った言葉を最後にご紹介します。

「私の地元はこんな風になってしまったが、皆の故郷は残っているから、家族や、地元を大事にしてほしい。」

ボランティアスタッフの感想

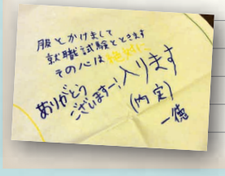
長期ボランティア

釜石で見てきたこと、感じたこと、何よりも現地の人たちの思い。その全てが僕に衝撃を与えました。そして、その時間は人生においてかけがえの無い自分の一部ともなりました。どんな思いでもいい。ぜひ、皆さんも東北の力になってください。
(5月27日～6月14日／のってぃー・北海学園大学3年)

定期便

この状況を伝えていかなければならないという気持ちになりました。そこにいた人達のたくましさや強さそして優しさはボランティアに行った僕達だからこそ知り得たこと事かもしれません。これからそのことをどのように伝えていくか考えていきたいです。(7月8日～11日／りょーた・教育大4年)

ティーンズプロジェクト



私は高校生なので、支援に行くことも、募金もほとんどできないと思い、直接被災者の人たちの力になれないと思いこんでいました。しかし、「高校生の物資が少ない」という話を聞いて、「私にもできることがあるんだ！」と思い参加しました。同じ高校生が対象であれば、支援という関係よりも、もっと現地の高校生と繋がって、できることを行なっていきたいです。(もえ・平岸高3年)

震災が起きてから今日までの動き

岩手県釜石市

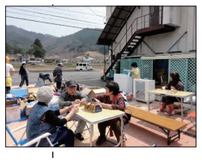
3.11 東日本大震災 大津波発生

4月
- ジョイ釜石へ物資提供スタート
- 子供遊びスタート

- 青空喫茶スタート

5月
- 第一陣6名、ねおす第三陣と一緒に、炊き出し、物資配布、パソコンや車の提供
- 長期6名が交代で出発。青空喫茶（物資無料バザー、洗濯機、休憩スペース、イベントスペースなど）の運営をメインで行う。

- がれき撤去作業スタート



- 長期ボランティアスタート
- ティーンズプロジェクトスタート

6月

- ねおすボランティア隊に同行し、定期便（緊急便）を実施。短期8名

7月

- 青空ひろばスタート

- ezorock主催の定期便をスタート
- 数名が長期ボランティアとして、次週の便まで残る仕組み。
- 長期8名、短期26名
- 主にがれき撤去作業、川の清掃活動、ヘドロ出し

8月

9月

- 漁業支援スタート

- ジョイとRSR11で再会
- 定期便一時停止。

- ねおす主催で定期便を再開。募集、説明会の協力。

ezorock